

I - C - 5

小柴胡湯及び丹参のAIDSウイルス 増殖抑制効果

1) 中日友好病院臨床医学研究所 2) 国立予防衛生研究所エイズ研究センター

○金 恩源¹⁾、徳永 徹²⁾、本多三男²⁾

【目的】最近、HIVの治療薬が種々発表されており、in vitroのみならず臨床に有効なものも報告されている。しかしながら、これらの多くは毒性または副作用の面での問題が指摘されている。漢方薬が長期投与でも副作用はほとんどなく、また免疫賦活作用を持つことが知られてきたので、今回我々は小柴胡湯と丹参がHIVの増殖に対する逆転写酵素(RT), P24, 生細胞数, PCR法によるHIV-DNAに及ぼす影響に就いて検討した。

【方法】 2×10^6 個のH9細胞をHIV III Bに暴露して七日間、 $1 \mu\text{g}/\text{ml}$ AZT (3'-Azido-2,3'-dideoxythymidine), DDI (dideoxyinosine)と $100 \mu\text{g}/\text{ml}$ 小柴胡湯、丹参の存在下、非存在下で培養した。RT活性測定は主に上清を超速心、ペレットにTritonx-100、RT酵素反応液を加え、 37°C 60分作用後、DE81濾紙に吸着後、放射活性の測定を行った。HIV P24はAbott EIA kitにより計った。トリバンプール染色法で生細胞数を算定した。PCR法はルーチン方法によった。

【結果】AZTとDDIはほぼ完全にHIVの感染とそれに基づく細胞障害効果を抑制した。小柴胡湯と丹参は細胞の増殖の著明な抑制が観察された。RT活性とP24抗原は、AZTとDDIの約80%の抑制に対し、小柴胡湯と丹参は約50%の抑制であった。PCR法でHIV-DNA量の減少がみられた。

【考察】AIDSの治療法では、抗ウイルス剤を用いてウイルスの複製増殖を阻止するのと免疫賦活剤を使用するのが重要である。小柴胡湯と丹参がHIVの増殖抑制作用を持つことを明らかにし、免疫賦活作用を有することを考慮に入れると、人体でのHIV再賦活化の抑制や発症阻止、治療促進などの効果も期待できると思われる。

【結論】小柴胡湯と丹参にはHIVの増殖抑制作用がみられ、その抑制機序は逆転写酵素によるウイルスDNAを特異的に阻止すると考えられる。